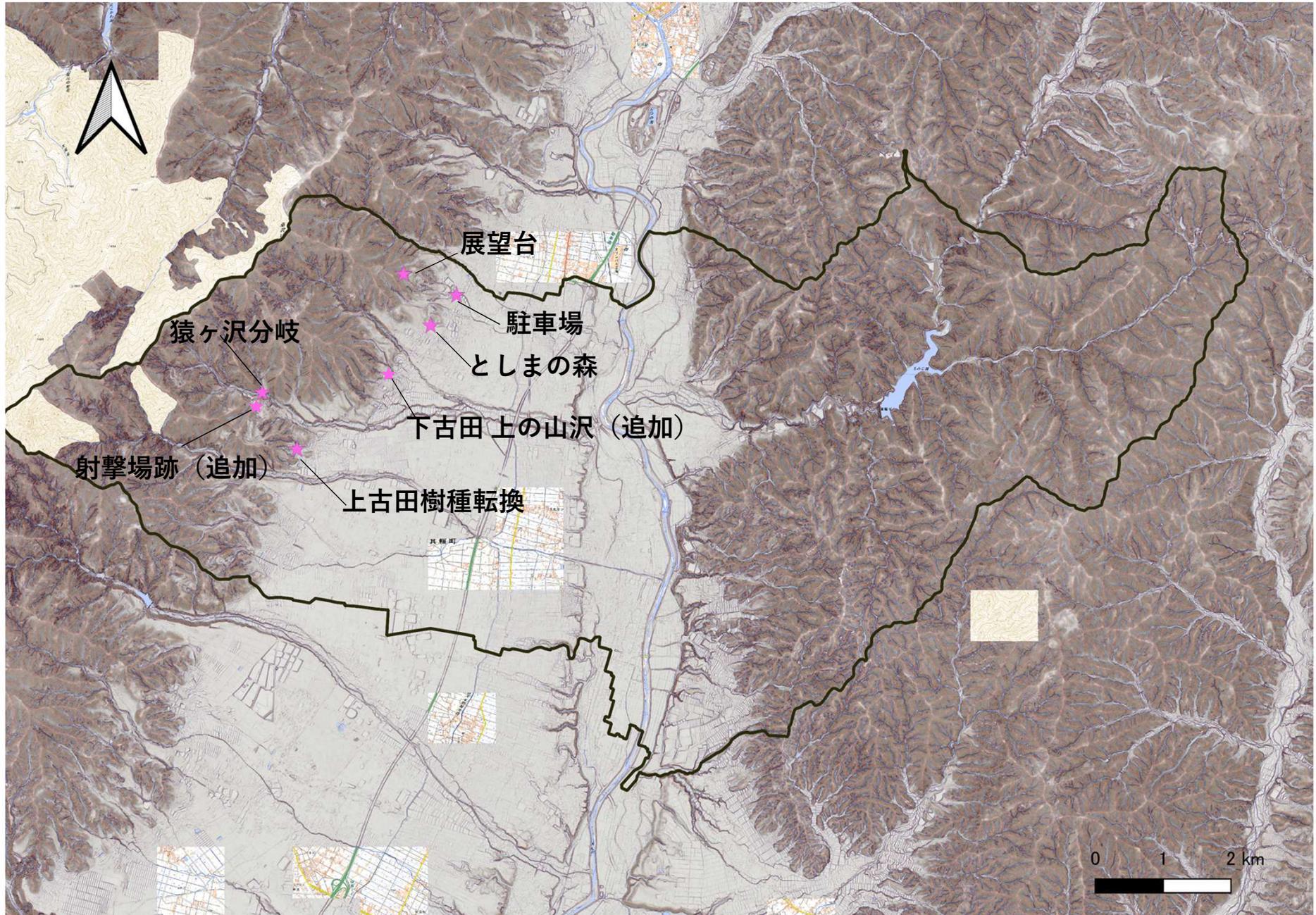


箕輪町森林ビジョン検討委員会
現地視察 報告書

令和5年9月19日実施

視察箇所位置図



展望台（沢区）



小口委員（前 沢区長）からの説明

- ・この展望台は、10年前の区長の発案で、楽山会が設置したもの。
- ・楽山会は、かつての区の役員と山が好きな人から成る。メンバーは現在、十数人。
- ・沢区では、9月末から11月にかけて、全5回ほど山の整備を行っている。他に、6月からは道の整備も行う。
- ・この道は元々、伐採搬出用に作ったものだと思う。今は、毎年5月に、区のハイキングで使用している。途中で音楽の演奏を聞いたりする。
- ・山菜は区民なら自由に採って良いことになっている。ただ、区外の人を規制する術もないので、区外の人が採っていてもどうしようもない。
- ・10年ほど前から、区の山にモミジやサクラを植えている。

森林アドバイザー 河手氏からの説明

- ・今回、東山には行かないが、ここから東山が良く見える。H18年の災害の時に土石流が発生した箇所も良く見える。
- ・清水小場（しみずこば）と呼ばれている場所があり、その下から抜けて、土石流が発生した。幸い、間一髪で死者は出なかった。
- ・当時、天竜川が決壊するかもという方がニュースになって、北小河内の土石流はあまり報じられなかった。
- ・当時、一週間の避難所生活を余儀なくされた。

～皆さんの会話から～

・ここは道を開けてしまったけれど良かったのだろうか？（小口委員）
→道を開けてはいけないということではなくて、どこに道を開けたとしても、排水をきちんとしないといけないということ。（三木委員長）

・上から見ると、集落（家）が増えたなと思う。
（白鳥委員、中村委員）

・昔は木が小さかったから、山のどこからでも展望台のように景色が見えて、自分の位置が把握できた。（白鳥委員）

展望台（沢区）



・東山はヒダが多い。ステージのようになっている地形（段丘面）が面白い。
上伊那は段丘林を伝ってクマなどが出てきてしまう。（三木委員長）

・福与の樹種転換地は陰になっていてここからは見えない。
今は広葉樹を植えて草を刈っている状況。（根橋副委員長）

・樹種転換などで植林しても、植えた木は根っこが下に伸びなくて災害に弱い？（小口委員）
→そういうことはないし、伐っても10年くらいは根っこが大地を抱いているので、植え替えれば大丈夫。
（河手氏）

としまの森・県採種園



としまの森

・チップが敷き詰められているのはなぜ？（三木委員長）
→遊歩道的な活用を考えて、作業道をそのまま活かすため。
散策することを前提としているが、刈り払って1年くらいそのままにしておくと草だらけになってしまう。

・ヒノキなんだよね...ヒノキ林は散策して気持ち良いかな。
（三木委員長）
→草を刈ってやれば歩きやすくなるよ（白鳥委員）
→元々はアカマツの下に植えられたヒノキで、被圧されていた。
松枯れしてしまうアカマツを伐ったのでヒノキ林になった、
ということ。（根橋副委員長）

・大芝のように平らなら良いけれど、傾斜があるから...。人が歩く
だろうか。（小口委員）
→マウンテンバイクコースというのもある（小笠原係長）
→それならアリかもしれない！（三木委員長、小口委員、ほか）

県採種園

・県の採種園。種を採るために、種類の異なる木が植わっている。
（河手）



下古田 上の山沢



小平委員（元 下古田区長）からの説明

- ・ ちょろちょろ流れている沢だが、少し奥に行くと30° くらいの壁がある。
- ・ 「土砂災害警戒区域」というのがどんなものかがわかる場所。
- ・ この場所は地元では、「悪石沢」「山の神沢」などと呼ばれている。
- ・ 集水面積は広くないので、水がたくさん出るわけではないが、元々地すべりが起こる地形なので、ずるっといくのが心配。
- ・ 以前は、委員会の資料で出てきた写真の沢のように、ここに倒木がたくさんあった。地域の人たちで片付けた。
- ・ 地権者の一人の了解が最後まで得られず、事業化はできなかった。

大丸教授、戸田氏の見解

- ・ 黒色土と褐色土の層が見える。
- ・ 黒色土は上流から流れてきたかもしれない。かなり層が厚い。
- ・ 岡谷の災害発生地でも黒色土の層が見られた。
- ・ 黒色土は水を通しにくいので、地すべりの滑り面になったり、木の根がそれ以上深く張らなったりする可能性はある。
- ・ 以前来た時は倒木が溜まっており、危ないですよという話をした。その後に地域で片付けられたということで、感慨深い。

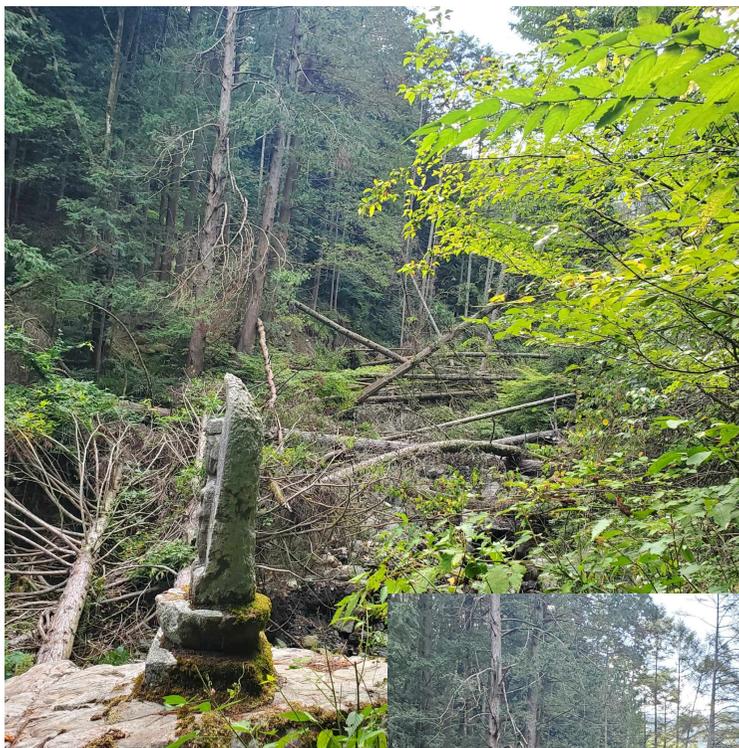


・ なんだかお化けが出そうな雰囲気のところだなあ。
(中村委員、ほか)

・ 大きなケヤキなどがあると崩壊は防げるか？ (小口委員?)
→逆に大きな木はない方がよいのでは？ (三木委員長)

・ 足元が泥っぽい。(事務局 井上氏)

深沢・猿ヶ沢分岐



事務局 小笠原係長からの説明

- ・町の水道の水源池があるが、今回見て欲しいのはその上流側。
- ・令和3年8月の豪雨で、周りが崩れ、倒木が沢に折り重なった。

・これを片付けるのは森林組合でも大変？（事務局 杉本）
→重機が入れないので。架線でというのも考えられるが、入り組んで倒れているので、玉切りするのも大変。（根橋副委員長）



・この観音様は次の災害が来たら流されるかも。
（小口委員）

・この上流の山の上にお地藏様があるが、過去の災害に関係しているのだろうか？（事務局 杉本）
→あれは「戌亥地藏」といって、風除け地藏。地区に冷たい風が吹き下ろさないようにと、山の上に祀られている。（小平委員）

射撃場跡



森林アドバイザー 河手氏からの説明

- ・ 県営の射撃場だった場所。
ここから、沢の対面に向かって撃っていたが、鉛玉による沢の汚染などが懸念されたことから、移設された。
- ・ 今も毎年、（川の水の）鉛の数値が公表されている。
- ・ 素焼きの皿を撃っていたので、向こう岸では今も皿の破片などが見つかるのでは。
- ・ 今ここは、緑の少年団の子どもたちが、森林整備や木育の体験をする場になっている。ここにある木は子どもたちが植林した。

・ 誰が利用した射撃場だった？（大丸教授）
→射撃競技の人や、狩猟の人の練習に使われた。（河手氏）

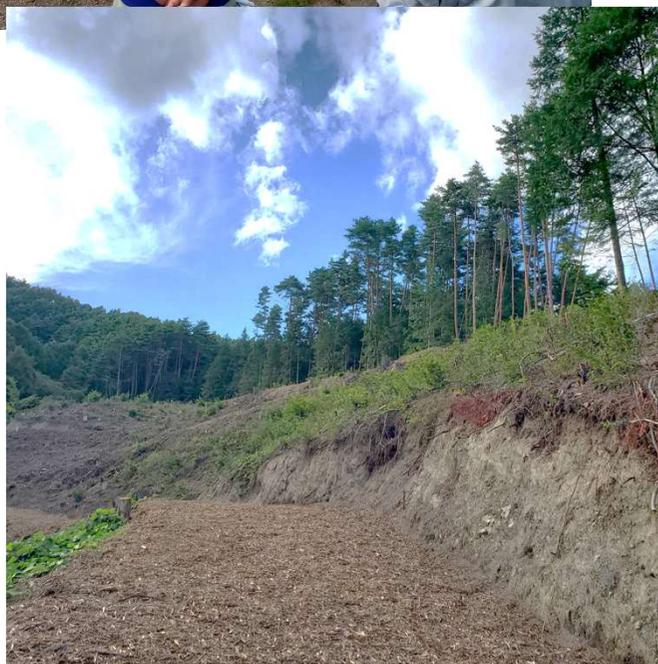
・ そのうち皿の破片を見て「こんな山の中に人が住んでいた痕跡がある！」と言われるかもしれない（笑）（中村委員）

・ この林道が舗装されているのは、射撃場があったため。
（事務局 倉田氏）

・ この上のところにイタドリが生えていた。
小さいころに食べたが、イタドリは美味しい。（中村委員）

・ アブラチャンの木がある。クロモジのような香りがする。
（小平委員）
→昔はアブラチャンの実を絞って行灯の油にしたと、高遠の人から聞いた。今ならアロマオイルとしても使えるはず。
（事務局 杉本）

上古田 樹種転換地



上伊那森林組合伊北支所 平澤氏 説明

- ・アカマツを伐採して樹種転換を行っている。信州の森林づくり事業の補助金を活用している。
- ・団地面積は、約1ha。作業道は403m開設。
※団地：一体的に整備する森林のまとまり。複数の所有者の森林から成ることが多い。
- ・木材の総搬出材積は852m³、そのうちアカマツが645m³だった。
- ・R6年春に植栽予定。植えるのは、森林所有者と相談し、ヤマザクラ2,500本。

質疑応答

Q. ヤマザクラで2,500本は密だが間伐するのか？（三木委員長）

A. 補助金の要綱要領に沿って植えると2,500本。将来的に間伐にも補助金が出る。

Q. 破碎チップを敷いてあるのはなぜ？（三木委員長）

A. 搬出できなかったアカマツの枝葉は規定により破碎しなければいけない。そのチップを作業道に敷き詰めている。道に敷ききらなかった分を林内にも敷き均すことで、防草効果も期待している。

Q. 残っているアカマツは？（事務局 杉本）

A. 所有者の了解が得られなかったアカマツが残っている。伐りたかったが。

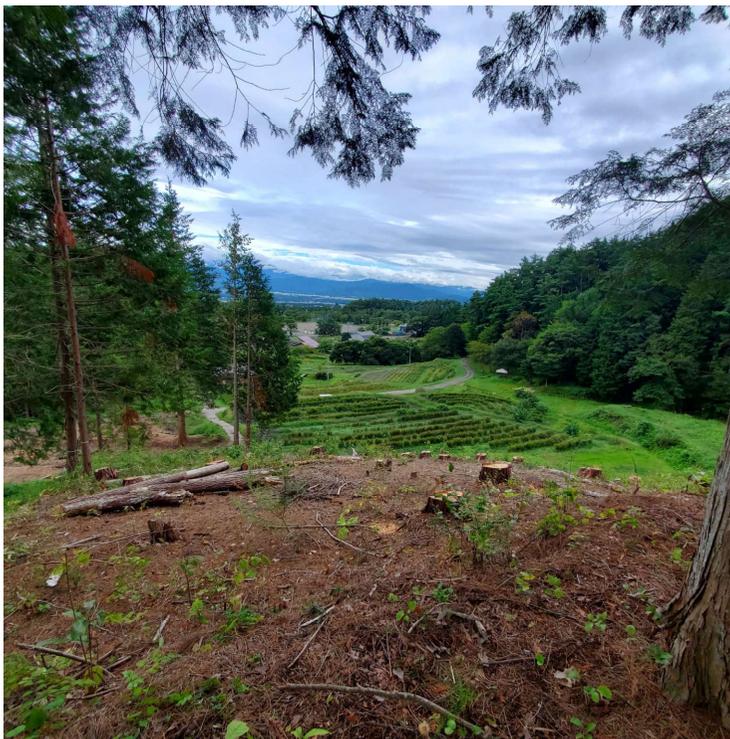
Q. 所有者が「伐らなくて良い」と言ったのか？（三木委員長）

A. 所有者がわからなかった、手紙を出しても返事がなかった、ということ。

Q. マツタケ採るところなのに！という所有者はいなかった？（中村委員）

A. いなかった。連絡がついた所有者さんは皆協力的だった。

上古田 樹種轉換地



Q. ヤマザクラになった経緯は？（事務局 小笠原）
A. 下の休耕田にアヤメを植えているので、山をヤマザクラにすることで景観を楽しめるようにということだった。

Q. 伐採したアカマツは燃料利用のみ？フローリング材等には？
A. ここで伐採し搬出したものは、すべて燃料用チップになった。

Q. 残っているアカマツが風で倒れたりしない？（事務局 木平）
A. 風が直接当たる地形ではないのでそこまで風の影響はないのではと考えている。

Q. この場所の標高は？（事務局 木平）
A. 900mくらい。

・残っているアカマツは雪で折れるかもしれない。（白鳥委員）

・アカマツは今が伐り時とも言える。（根橋副委員長）
今伐らなきゃいつ伐るの、と思う。（白鳥委員）

・（下には）あずま屋もあるんだね。これはいいな。（中村委員）

・たしかにサクラも咲いてアヤメも咲いたらきれいかもしれない。
サクラは東山からも見えるのでは。（三木委員長）

・ただ、ヤマザクラの純林というのも…。桜の季節は良いが、それ以外は何もない森になってしまうようにも思う。（三木委員長）

役場での意見交換

- 小平委員 沢区の展望台、いいなと思った。下古田でも展望台を作りたいという話が出るのだが、山が近すぎて、張り出さないと見晴らしが良くないのではと思う。上古田のヤマザクラも、うらやましいなと思った。下古田でも尾根沿いにヤマザクラを植えたいという話もある。春の景色がだんだん上に登っていく森というのも素敵だ。下古田でも今日見たところできるだけ近づけていきたいと思う。
- 根橋副委員長 上古田の樹種転換地は、来春ヤマザクラを密植する。その後どういう管理をしていくべきかは、まだわからないところも多い。その時々で必要な管理、適切な管理を見極めて、行っていきたい。ながた自然公園の施工地（としまの森）についても、継続的な管理をしないと、人に楽しんでもらう環境を維持するのは難しいと感じている。下草刈りなど、その時々に必要な施業をしていきたい。
- 白鳥委員 50～60年前は、山の木々が小さく、どこからでも町が見渡せて、山全体が展望台だった。山に手を入れていけば、ああいう展望台もいくつかはできるのではないかと、できれば通年楽しめる展望台ができたら良い。雪を被ったアルプスが見られたら最高。見渡してみても、手の入っていない山が多いなということを感じた。
- 中村委員 沢区の展望台はだいぶ前にできていたようだが、今回初めて知った。もっと早くに知りたかった。しかし考えてみると、松島区では景色が見たければイオンの屋上から見れば良いと言われてしまう気がしたので(笑)、うらやましいなと思いながら帰ってきた。松島区の場合は西山は遠いので、東山でなんとか同じようなものができないかなと思った。町全体で取組めれば良いなと思った。
- 小口委員 猿ヶ沢分岐を見て、おっかないと思った。沢区の桑沢川に置き換えて考えていた。なんとかしないととは思いますが、どうにもならないかもしれない。桑沢川では、楽山会が手を加えて、クリンソウを植えるなど、区民を山に呼ぼうという取組みをしている。そういう意味でも、災害は起こらないでほしいと改めて思った。
- 三木委員長 沢の展望台やとしまの森を見ると、森の中にアクセスしやすい場所をつくるのは大切だが、それを維持するのが課題なのだなと思った。また、上古田ではヤマザクラを植栽するということがあったが、箕輪町を全面ヤマザクラにするというわけにもいかないだろう。そうすると、森をどうデザインしていくのか、どういう姿にしていくのかを考えていくのには、ある程度専門家が援助する必要があるかもしれない。今回のビジョンで示すのは森の区分だけだが、具体化していくときには具体化していくかなりの知恵が必要なのかなと思った。もう一つ、テラスなどを作った後には、どのくらいの人がどのくらいの頻度で利用するのかを考える必要があるだろう。地元の人だけなのか、外からも人を呼ぶのかによって、安全管理などが変わってくる。

三木委員長 「もりぞん」による森林評価を見て、なるほどと思ったのは、猿ヶ沢分岐は「もりぞん」の評価では「林業適地」となっている。道から近くて林業適地と言える場所でも、上流から水が出てきたらあんな風になってしまうし、現状では道が壊れて材を出せない。現状では林業適地でも、災害が起こったらそうではなくなる、ということ。そういう視点でこの図は見ていかなければいけないということかなと思った。

事務局 杉本 今、大事なご指摘をいただいた。前回の委員会でもお話ししたが、「もりぞん」の評価は大まかなもので、「もりぞん」で林業適地と評価されたエリアの中にも、災害リスクは存在する。逆に、災害リスクが高いと評価されたエリアの中にも、木材生産できる場所もある。「もりぞん」による色塗りはあくまでも大まかな目安。「災害リスクが高い」と評価が出たら手を付けてはいけない、ということではなく、「なぜリスクが高いと判断されたか」をよく吟味して、利用や管理を考えていくことが必要。

大丸アドバイザー 「もりぞん」を本格的に展開するのは、箕輪町が初めてに近い。だからこそ「ここが使えませんでした」という情報も積み上げてほしい。三木先生のお話しにあったように、今日見てきた場所のような、上流の状況を考えて明らかに災害リスクが高いところでも、「もりぞん」では「林業適地」と出てしまう。「もりぞん」が評価に使っている傾斜等のデータだけではゾーニングがうまくできなかった、という事実もぜひ、（もりぞんを公表している）林野庁にも伝えていただければと、個人的には思う。今日現場を見ていて、森と人との距離が近いと感じた。観光客向けに作られた景色というのは心が動かないが、箕輪町の景色が美しいのは、人を呼ぶために作った景色ではなく、地域の人たちが自分の山に愛着を持って利用しているその姿が美しいのだと思う。自然体が人の心を動かすし、そういう意味で、まず地域の人が楽しめる森づくりをするというのが良いのかなと思った。

事務局 小笠原 大丸先生にもう少し伺いたいが、今日、猿ヶ沢分岐や下古田など、災害リスクの高い場所も見もらった。そうしたことも踏まえ、箕輪町が災害について、何に注意したらよいか、箕輪町の（防災上の）特徴などを教えてもらえたらと思う。

大丸アドバイザー 例えば今日見た猿ヶ沢の場合、その場所自体の災害リスクというより、上流が崩壊して土砂が流れて沢が動くようになり、溪岸（溪流の岸）侵食が起きて、木が倒れるようになった、ということがあると思う。「もりぞん」では、そうした流域的な視点がない。箕輪町でゾーニング（森の評価）を考える場合、そうした視点を加えるのが良いかもしれない。

事務局 小笠原 下古田では、黒色土が上から流れてきているという話だったが、その辺りをもう少し。

大丸アドバイザー そこは謎なのだが、黒色土と角礫層が幾重にもなっていて、ひょっとしたら、人間の（活動の）影響もあるかなと思った。問題は、粘着質の黒色土が水を通さない不透水層として効いていそうなこと。岡谷でも黒色土の不透水層が悪さをして水が走ったような現場もあった。

大丸アドバザ - 地形的には、「もりぞん」でも「災害リスクは高くない」と評価されるようななだらかな場所でも、かえって水が出ることがある、というのがこの地域の特色でもあるかもしれない。森の評価を考える際には、その辺りも（地域に合わせて）カスタマイズして考えてもよいだろう。ということは、地域ごとに調べなければならないし、考えることはたくさんあるが、その結果は周辺の他地域にも応用できる。とは言ってもどうしてもなく複雑怪奇な地質というわけでもない。それなりにパターンを落とし込めそうな気がするので、整理をすればゾーニングの精度が高まると思う。

大丸アドバザ - (下古田の写真を改めて見て) 長期間ずっと水が流れていれば、もっと谷が深くなるはずだが、そうではないところから、どこかのタイミングで水の通り道が切替わったのかもしれない。水がここを流れるのは、やはり黒色土の影響があるかもしれない。

事務局 杉本 黒色土だと水が流れにくい？流れやすい？

大丸アドバザ - 水を通しにくいということ。一番表層に黒色土がある分にはそんなに問題にならないが、黒色土の上に水を通しやすい別の層が乗っていると、黒色土の層が滑り面になって、上の層が崩れてしまうことがある。

事務局 杉本 下古田を見て、今すぐ危険ということではない？

大丸アドバザ - 今すぐ危険というわけではない。奥の急なところは徐々に崩壊して後退していくと思うが。水の通り道が変わったのではというところが、今後はどうつながるのかということは、若干気になっている。

小平委員 前に同じ場所を戸田氏（ジオ・フォレスト代表取締役）にも見てもらっているので、戸田氏にもコメントを。

戸田氏 5年くらい前に地形判読をした。その時に「この沢は危ないのでは？」ということで、地区の方々と見に行った。今日は歩ける状態だったが、当時は倒木が多く、歩きにくかった。水も流れていたなので、倒木をそのままにしておくと水量が増えたときに下流の民家の方へ流れてしまうかもしれないという話をした。今日見たら、地区の皆さんが手を入れて、谷筋の倒木を除去されていた。皆さんが努力をされたことに感動した。こういう危険な場所を地域でひとつずつ整理して手入れしていくことは重要で、他の地域でもできる、良い事例なのではないだろうか。

大丸アドバザ - 地形を見ると、上の平らな面が気になる。沢を土砂がかさぶたのように埋めているのかもしれない。傾斜が急ではないので熱海のような大きな土石流にはならないと思うが、水が流りたい場所を流れられない状況があるかもしれない。

- 戸田氏 大丸先生と現地でも話していたが、黒色土の層が異様に厚い。例えば昔、上の平坦地で畑をしていたとか、何か人の活動があった可能性はないか？
- 小平委員 周りには、果樹園だったところもある。ひょっとするとあの上あたりも何かやっていたかもしれない。
- 戸田氏 火山灰由来の黒色土ということも考えられるが、それにしても分厚い層なので、人の活動由来も考えられると思った。
- 大丸アドバイザー 由来はどうであれ、水が流れやすいところに物（土）が詰まっている状況であることは確か。下流に民家もあるので、注意が必要な場所であることは間違いない。
- 事務局 杉本 倒木なら除去できるが、黒色土を全部入れ替えることはできない。対策としては何ができるか？
- 大丸アドバイザー 簡易的なスリットダムを入れるとか。何か引っかかりを作るだけで違う。もちろん治山施設を入れれば止まるが、永久に地形が変わってしまうので、簡易的なものの方が馴染むのではと思う。
- 戸田氏 倒木を除去してあるというだけでもだいぶ違う。それ以上のことをするならば、保安林に指定して治山工事など、地域でできる範疇を超える。まずはできることをやっておくというのが重要かと思う。
- 小平委員 この沢は事業展開はできないところ。土地所有者の中には、同意しない人もいる。
- 戸田氏 そういう話は地域で動く際に重要で、そうした所有者に「あなたの山は危険な状態ですよ」と伝えて理解してもらわなければならない。
- 三木委員長 山が崩れるかどうかは専門外なのでわからないが、集落のすぐそばまで、ああいう林があって、「お化けが出そう」という話もあったが、あまり気分の良い山ではなかった。なかなか踏み込んで沢まで入っていく気にもならない、という環境になっているが、あれを町としてあのままにしておくのか、小ざっぱりした山にしていくのか、というところは考えないといけないと思う。ただ、小ざっぱりさせたために災害が起こってはしまったり、タケニグサだらけの藪になっても困るので、そこの知恵を付けないといけないと思った。集落の際まで迫った山をどう管理していくのか、は考える余地がありそうだ。
- 事務局 河手 今日委員の皆さんに現場を見てもらえてよかった。少し話が変わるが、なるべく手をかけずに天然の森に移り変わらせていく、というのもビジョンの中に盛り込んでいけたらと思っている。

中村委員 猿ヶ沢なども、最初は「何だこれは!？」と思ったが、段々と見慣れてきてしまった。そういう場所が町の中にはたくさんあるのではと思う。そうした危険箇所の評価基準などを設けて、整備の優先順位を付けるようなことが良いと思う。整備はみんなしてほしいが、どこが先なのか、なぜ先なのかを明確にしながら進めていく必要があるのでは。

三木委員長 優先順位付けは大事。町にも無限に予算があるわけではないので、より優先度の高いところから手を付けていかざるを得ない。

事務局 小笠原 現時点で町ではそうした順位付けはできていないが、県では事業化する際には点数付けして採択をしている。また県にも聞きながら、町としてもできればと思う。

中村委員 森林ビジョンをつくるわけだが、町としてはどうしたいのかを示して、それに対してどうアプローチしていくかを考えないといけいない。どういう順で考えて、最後ビジョンに持って行くのか。そういうストーリーがないと、なかなかわからない。

事務局 小笠原 今日こうして皆さんから伺った課題をどうしていくか、ということが、具体的なアクションプランの部分にもなっていく。

中村委員 今日見た下古田なども、点数付けしてみて低ければ、後回しでも良いのではと思った。

事務局 小笠原 下古田は地域で実際に危険除去を行った好事例ということもあって見ていただいた、ということである。

三木委員長 優先順位を決めるときに、危険度が高ければ先にやらなければいけないのはもちろんなのだが、危険度が高ければ町がやる、というだけだと、集落が自分たちでやるという意識を削いでしまうこともある。そこは気を付けたいところ。

中村委員 やっぱり自分たちの川、自分たちの山という風に、当然自分たちでやらなければいけないことがある。町は、何でもやるのではなくて、地域でやることについてはそう言って良いと思う。何でも町に任せて放棄してしまうのは違うと思っている。

三木委員長 展望台で説明をいただいたときに思ったが、地区での森林管理作業の中に、水路の浚渫とか、安全管理のための作業を取り入れていくこともできるのではないか。そして、今この地区にどういう作業が必要かというところは、例えば森林組合さんなどのアドバイスをもらうことができれば良いのではと思う。

- 白鳥委員 地区で山を守っていくという話で、今、区議員は50代なのだが、チェーンソーを使ったことがないという。その人たちに山を守れと言うのは無理だなと思った。やはり、上の世代から教えていかないといけない。
- 中村委員 ビーバーを持っている人も少なくなっている。
- 小平委員 下古田の個人有林は、地区外に住んでいる人の所有地もある。共有林もある。自分の山がどこにあるかわからないという問題もある。地区で作業道や林道を管理するにも、草刈りなどをするにも、本来は所有者の了解が必要。境界や所有者をはっきりさせることは必要。
- 事務局 井上 林務の担当になって、所有境界の明確化がまず大事だということを理解した。状況把握から始めて色々と考え、今ようやく、どういったかたちで境界情報を公開したらよいかが見えてきた。オープンにできるように整ったら、またお伝えする。
- 白鳥委員 我々は県や国の森林のための税を納めている。それらを境界明確化等に使うと聞いていたが、予算は余っているのではないか。県の方に聞けば、その森林税を使って境界明確化ができるのではないか。
- 事務局 井上 山だと、県をつくる林班図と、公図がある。この2つの地図があることで、逆に地権者の特定が難しくなったというのもあると思う。ただ、システム改修はできてきているので、わかりやすい形で公開したい。
- 中村委員 相続が発生したりすると、余計に地権者がわからなくなるし、地区で整備したりする際に了解を得なければいけない人が増える。勝手に道を作ったりするのはさすがにまずいが、危険な木の整備くらいは、了解なしでも良いのではとも思う。
- 三木委員長 緊急に危ないときには町が手を入れられるし、全員に判子をもらわなくても代表者の了解を得れば簡単な施業ができるようには制度上もなっている。相続についても法律が変わってきたので、徐々によくなるはずである。
今日の現地視察を通して、眺望の良さはこの町の財産だと感じた。観光もそうだが、地域の人が楽しめるようにという意味でも、要所要所に眺望を楽しめる場所をつくる必要があるかなと思った。

以上